

介護新聞

2016年(平成28年) 12月8日 毎週木曜日発行
 発行所 株式会社北海道医療新聞社
 〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目(北海道医師会館)
 ☎011(221)7777 ホームページ http://www.medim.co.jp

主な記事
 2面…GH入居者がカフェマスターとして活躍
 3面…療養病床新たな施設類型創設へ利用者像、施設基準など概ね了承
 10面…網走市社協「サービス介助士」資格取得支援

道内初、特養内にサ高住

＝芦別慈恵園＝

時代に合わせ形を変え続ける芦別慈恵園



過疎・高齢化の進む地域で特養の入所定員割れも懸念される中、芦別市内唯一の特養芦別慈恵園は、入所定員を14人減らし、サービス付き高齢者向け住宅9室に転用する計画だ。社会福祉法人の役割として、軽度者の望まぬ移住を防ぐとともに、将来的な待機者減にも対応するのが狙い。特養内にサ高住を整備するのは道内初のケース。職員やサービスが身近にあり、「住むことで介護予防になる住まい」として2018年4月供用開始を目指す。今後の地方の特養のモデルになりそうだ。

18年4月供用開始

芦別慈恵園が入所定員を減らしサ高住に転用する。同市の人口は40年に現在のほぼ半数の約7400人に減少する見込みで、介護3以上の割合は全国平均17%を上回る21%。今後10年の人口推移をみると、65歳以上人口がほぼ一定前から、状態が悪くなる抱える要介護1、2の軽度者が子供らのたないうちに、高齢

定員14人減らし、住まい9室に転用

■施設定員再編のイメージ

現在	定員
芦別慈恵園	86
かざぐるま	20
うち在宅・入所相互利用	1
合計	106

2018年4月以降	定員
芦別慈恵園	72
うち在宅・入所相互利用	2
かざぐるま	20
合計	92
サ高住	9

軽度者の望まぬ移住防止、待機者減対応も

住む市外の施設等に移り住み、制度に振り回されるようなじみみのコミュニティを離れざるを得ないケースに歯止めをかけた見込だ。待機者減少が見込



4人室に間仕切り壁を取り付け、プライバシーに配慮した準個室

いもの市外施設等に多床室が並ぶ一面を改修し整備。同施設が順次進める多床室の準個室・ユニット化に向けての改修工事の延長でもあり、「同じ設計士による、温かみのある木目調の統一された仕様(小野省吾まちづくり事業部長)とする。施設内だけに身近に職員がおり、同法人が運営する在宅サービス用されず空くことが見込まれる場を利用しやすくなり「住むことで介護予防になる住まい」の形を提示していく考え。改修で対応できるため新築に比べ費用が軽減され、家賃等も抑えられる見通しだ。

5月の理事会・評議員会で特養のサ高住へ一部事業転換が承認され、定員数減について市と協議しながら、特養施設を特養以外の用途で使うための用途転用手続きを経て、17年秋に着工、18年4月1日供用開始の予定。道内屈指の長い歴史を持つ同法人は、地域で行う脳の健康教室などがお塾や、えがお健康体操教室など地域づくりに取り組み、成果を上げていく。川邊弘美施設長は「市民の健康寿命を守るため地域と関わる当法人の理念の下、時代に合わせ形を変え、過疎・高齢化でさまざまな課題を抱える地域における特養運営のモデルになれ」と話している。

過疎・高齢化進む地方モデルに

再編後は本体施設を72人とし、うち同加算対象2人分を確保するため入所定員は実質16人減らし、施設内にサ高住9室を整備。かさ高住9室を確保。川邊弘美施設長は「市民の健康寿命を守るため地域と関わる当法人の理念の下、時代に合わせ形を変え、過疎・高齢化でさまざまな課題を抱える地域における特養運営のモデルになれ」と話している。